

2019

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.62

2019年度国家予算、101兆4564億円!

—初の100兆円超、消費増税対策2兆円

2018年12月21日、政府は2019年度国家予算案を閣議決定した。一般会計の歳出総額は18年度より3兆7437億円多い101兆4564億円となり、7年連続で過去最高を更新し、当初予算で初の100兆円超えとなった。

歳出の内訳を見ると、19年10月に予定されている消費増税対策が2兆280億円となっており、100兆円を超えた理由となる。また社会保障費も34.1兆円と18年度より3.2%増加となっている。一方、収入源となる歳入の内訳をみると、税収が62.5兆円（前年比5.8%伸び）、税外収入6.3兆円（前年比27.5%伸び）と特に税収は19年1月に戦後最長となる景気回復で過去最高水準が見込まれているが、歳出とのバランスで言えばまだまだ足りない。結局は国債発行32.7兆円に頼らざるを得ない状況である。

歳出膨張の大きな要因となっている消費増税の対策＝消費税

を10%に上げる事による景気後退への懸念対策であるが、キャッシュレス決済へのポイント還元分に2798億円、2歳以下の子どもがいる世帯と低所得層向けのプレミアム付き商品券に1723億円を計上している。

そもそも消費増税は、財政の健全化のために行われるのであるが、増税直後の消費後退の施策に2兆円超の歳出が必要なのか、疑問視する声も多い。

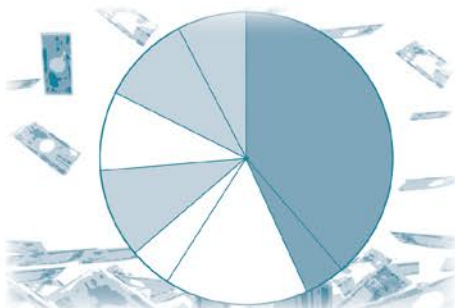
一方で「災」が2018年を象徴する漢字に選ばれた事に代表されるように、年間通じて全国的に様々な災害に見まわれた事を反映して、防災・減災対策に1兆3475億円が充てられる。

社会保障費も34.1兆円に関しては、高齢化に伴う社会保障費の自然増が4768億円、消費増税の税収分を活用する教育無償化や社会保障の充実に7157億円を使うという。

その他の注目ポイントは防衛関係費の伸び。7年連続で増え、過去最大の5兆2574億円。陸上配備型の迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」や最新鋭ステルス戦闘機「F35A」など米国の高額装備品取得が総額を押し上げているが、これらは、トランプ政権からの圧力であることは周知の事実である。



■参考資料
初の100兆円予算、19年度101兆4564億円 増税対策2兆円 日経新聞
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ039202650Q8A221C1SHA000/>
19年度予算案101兆4564億円、7年連続で過去最高 増税対策に2兆円超
<https://blogos.com/article/346683/>
国家の収入はせいぜい70兆円なのに国家予算は101兆円!
<https://blog.goo.ne.jp/plum2185/e/8c295868f5f79c3e88a8a9549dfe9b16>



美楽からの一言

2020年の東京五輪を目前に控え、戦後最長となる景気回復が想定されているが、必ずしも庶民の生活レベルでの実感は乏しい。

一方で、政府には消費増税による景気後退という強いトラウマがあるようだが、その施策内容は果たして有効なのか？過剰反応気味という指摘もある。いずれにしても大切な税金による予算であり、適切で有効な使い途が望まれる。